

えせし病院だより

編集 病院新聞編集委員会

小児科紹介

— 予防接種について —

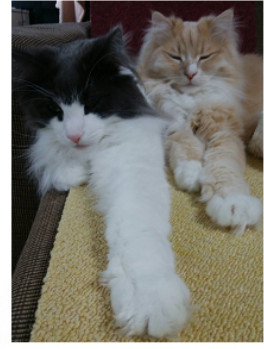
今年の春に道立江差病院に赴任しました、野上和剛と申します。厚沢部町と同じアイヌ語の語源と言われる和寒町に生まれ、釧路の高校を卒業後、とある大学の臨床心理学科に入学、いろいろと考えたことがあり中退し再受験を経て、札幌医科大学に入学しました。

その中でも私はアレルギーを専門としています。食物アレルギー・気管支喘息・アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎などが対象になります。札幌の先生方から電話やメールでの相談も受けています。インターネット上では誤った情報が入り込んでおり、逆効果となる方法を堂々と書かれている事もよく見られます。



また、南檜山地区はアレルギー疾患の有病率も重症度も高い印象があります。適正な診療はもちろん、ダニアレルゲン舌下免疫療法という最新の治療も取り入れておりますので、ぜひご相談ください。

小児科は非常に幅広い領域をカバーしなくてはなりません。内科系疾患はもちろんですが、外科や皮膚科、耳鼻科、眼科領域に関わることも多いです。時に整形外科、精神科、泌尿器科、産婦人科領域などにも関わり、院内外の先生方と連携して診療しています。また、予防接種や健診、保健活動といった直接病気にかかわらない業務も小児科の特徴です。



これから力を入れていきたいと考えているのが、任意接種の予防接種の接種率向上です。特に、ロタウイルスワクチン・B型肝炎ワクチン・おたふくワクチンは何れも、この地域の接種率が非常に低く、かつ恐ろしい合併症が多い事が特徴です。

ロタ

- 世界で毎年50万人以上の乳幼児死亡。脳炎・脳症・けいれん・ウイルス発疹症・腸重積・蛋白漏出性胃腸症等、合併症も重度で多彩
- ワクチン費用が高い(25000円くらい)が、感染・発症による社会経済的損失の方が大きい
- 生後14週6日までに初回接種が必須
- 当地の接種率は3割くらい(都市部は約7割)、その多くが通勤族、除くと接種率は2割くらい

おたふく

- 約5%で無菌性髄膜炎、時に脳炎も発症
- 約0.1%で永久に高度な難聴 ⇒ 後天性難聴に至る一番の原因
今年、耳鼻科学会が予防接種を強く推奨
- 肺炎4%、思春期以降で精巣炎30%・卵巣炎5%・乳腺炎20%と合併症が多い

B型肝炎

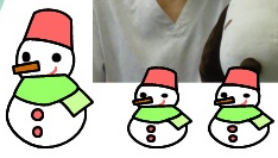
- 世界で年間約50万人がB型肝炎関連疾患で死亡。最近定期接種化されるまで、ごく一部の発展途上国と日本他数か国が任意接種だった
- 乳幼児期に感染すると、ほとんどがウイルスが残り続ける「キャリア化」する。涙や鼻汁にも大量にウイルスを排泄、保育園での集団感染事例あり
- 定期接種対象外の児にも任意接種を強く推奨

道立江差病院小児科では、午前中一南檜山圏唯一の小児科医としてに三十人ほどの外来と、午後の予防接種・院内外の健診業務・各種講演や授業・会議が主な仕事です。

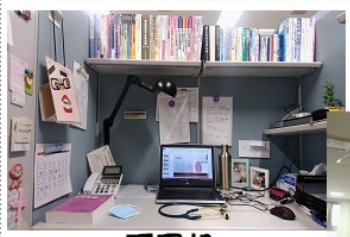


また、開業のクリニックとは違い、長時間かかる検査、重病児の初期診療と都市への搬送、入院患者の診療も一人で行っているため、午後は急病以外の一般診療を受けられません。そういった事情を理解して頂けるようになり、不急の時間外受診希望は激減しています。(電話相談・問い合わせはいつでもお受けしています・緊急性があると考えられる場合は時間外でも受診をお勧めすることがあります)

道立江差病院小児科 野上



小児科診察室



医局机



2017年冬号

